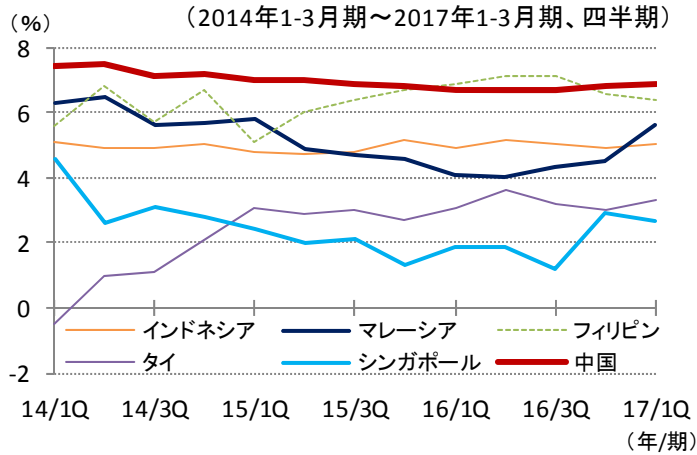
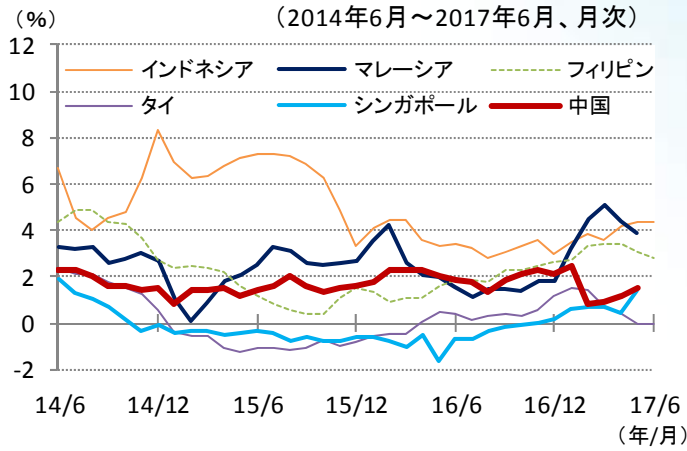


経済

各国の実質GDP成長率(前年同期比)の推移

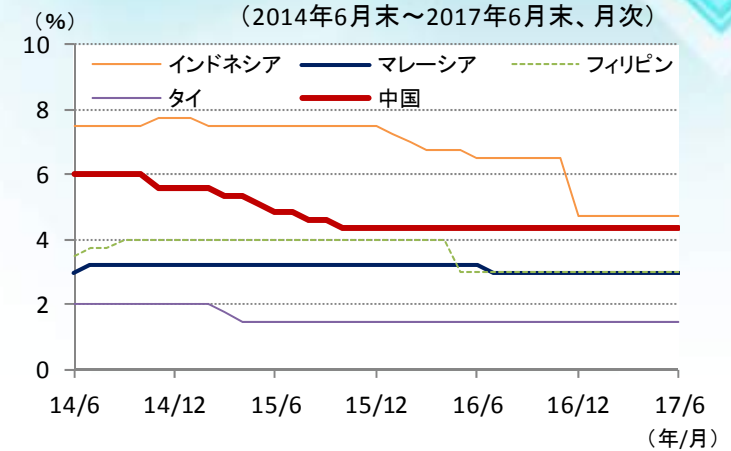


各国の消費者物価指数(前年同月比)の推移



※マレーシア、シンガポール、中国は2017年5月までのデータを使用

各国の政策金利の推移



※インドネシア: 2016年7月末までBI金利、同8月末から7日物リバースレポ金利、マレーシア: 翌日物政策金利、フィリピン: 翌日物借入金金利、タイ: 翌日物レポ金利、中国: 1年物貸出基準金利を使用

【前月の経済概況】

中国の5月分の経済指標では、輸出入の伸びが改善した一方、インフラ投資や不動産開発投資の伸びが減速しました。また、自動車の生産・販売の持ち直しを受けて、鉱工業生産や小売売上高の伸びは横ばい圏で推移しました。新築住宅価格は中小都市で上昇が続く一方、大都市では前月比で横ばいや下落に転じており、2極化傾向が強まりました。中国人民銀行は下旬にかけて公開市場操作による資金供給を見送るなど引き締め気味の金融政策を継続しました。また、同行は人民元の対米ドル基準値の算出方法について振幅がより小さくなるように変更し、人民元安や中国からの資金流出の動きを牽制する姿勢を強めました。

アセアン主要国では緩やかな景気回復が続きました。世界経済の回復による需要の拡大や商品価格の上昇を背景に多くの国で輸出は底堅い伸びが続きました。また月次の自動車販売台数は各国毎のバラツキはあるものの、アセアン全体としては着実な増加が続いている模様です。一方、各国とも消費者物価指数は概ね落ち着いた状況となりました。フィリピンやマレーシアでは前年同月比の上昇率の加速に一服感があるほか、タイは上昇率がマイナス圏で推移しました。インドネシアは中央銀行の目標レンジ内での推移が続きました。

【今後の見通し】

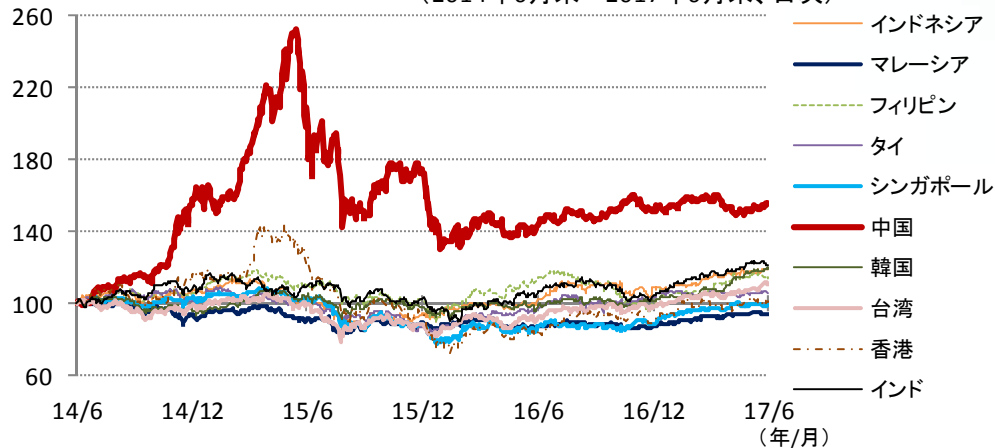
中国の6月の製造業PMI(購買担当者指数)は政府発表分が前月から+0.5ポイントの51.7と3カ月ぶりの高水準を回復し、民間発表分は同+0.8ポイントの50.4と2カ月ぶりに景気判断の分かれ目となる50を上回りました。習近平政権は秋の党大会を控えて金融リスクの抑制に注力していく方針と見られており、過度な金融の引き締めが景気の下振れリスク要因として残りそうです。一方、5月末時点で外貨準備高が7カ月ぶりの高水準になるなど資金流出の動きが一服しつつあること、人民元レートも対米ドルで持ち直しが続いていることから、当面の景気は安定化すると見られます。

こうした中、アセアン主要国では引き続き各国毎の内需の強弱が成長率を左右しそうです。各国ともインフレは総じて落ち着いているものの一段の金融緩和余地は乏しいと見られ、インフラ投資など財政政策の動向が注目されます。

## 株式

### 各国の株価指数の推移

(2014年6月末～2017年6月末、日次)

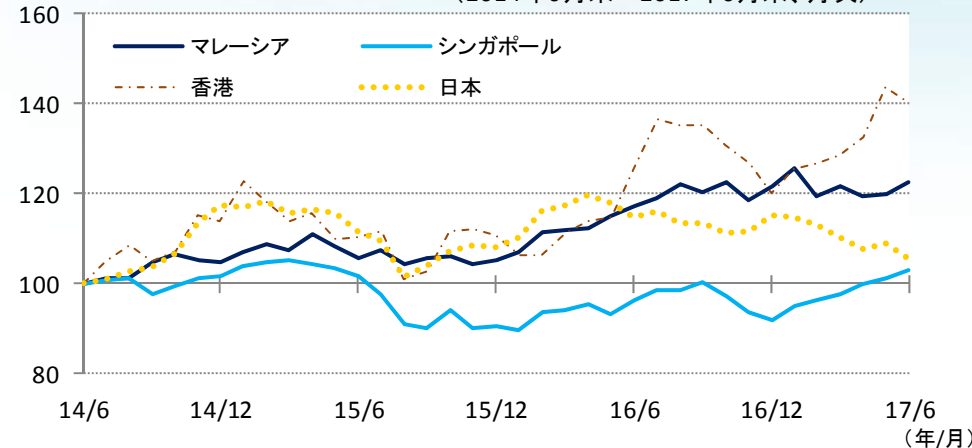


※グラフ開始日を100として指数化。使用している指数については4ページをご覧ください。

## REIT

### 各国のREIT指数の推移

(2014年6月末～2017年6月末、月次)



※グラフ開始日を100として指数化。各国・地域のREIT指数は、S&PグローバルREIT指数(現地通貨ベース)の各国・地域のインデックスを使用。

#### 【前月の市場概況】

6月のアジア株式市場では、主力ハイテク株の上昇が牽引役となった**台湾**、**韓国**が堅調に推移しました。**台湾**はITバブルに沸いた1990年4月以来の高値を更新、**韓国**は国内景気回復や文在寅政権への期待も加わり、一時史上最高値を更新しました。一方、**インド**、**マレーシア**は下落しました。**インド**は一時史上最高値を更新したものの、7月導入の物品・サービス税の影響に対する思惑から、月末にかけて利益確定目的の売りが強まった模様です。**中国・上海総合指数**は4カ月ぶりに上昇しました。中国当局による金融業界などへの監督強化の動きが重石となった一方、国際的な株価指数への中国株採用決定を受けて海外からの資金流入期待が高まりました。

#### 【今後の見通し】

アジア株式市場は、もみ合い推移が見込まれます。  
足元で欧米や中国の企業景況感指標が好転しており、世界景気の回復期待を背景にアジア株式市場に資金が流入しやすい環境が続くと見られるものの、多くの国で株価指数が高値圏にあり、利益確定目的の売りが上値を抑えそうです。

#### 【前月の市場概況】

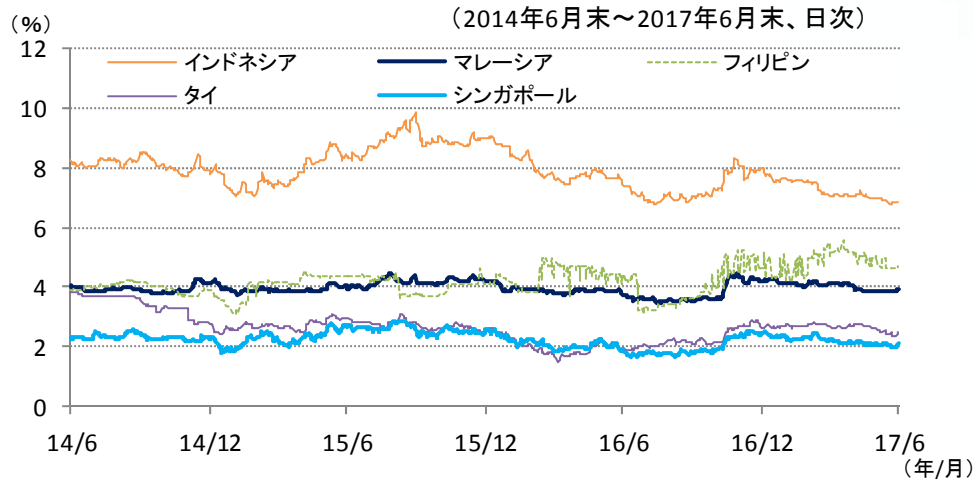
6月のアジアREIT市場は上昇しました。**シンガポール**は配当利回りが高い中小型REITを選択する動きが強まり、堅調に推移しました。一方、**香港**は投資家による高利回り選好の動きが支援材料となったものの、通年決算発表後に大手商業施設REITに対する利益確定目的の売りが強まったことから、上値の重い展開となりました。

#### 【今後の見通し】

欧米での金利上昇圧力の高まりによるアジアREIT市場への影響が懸念されるものの、投資家による高利回り選好の動きが市場を下支えする見込みです。またアジアREIT市場全体では堅調な配当金成長が見込まれます。今後も短期的には長期金利の動向や各国の金融政策の動きなどに左右される展開が見込まれますが、中期的には各REITの底堅い業績動向などが評価され上昇する展開を予想します。

## 債券

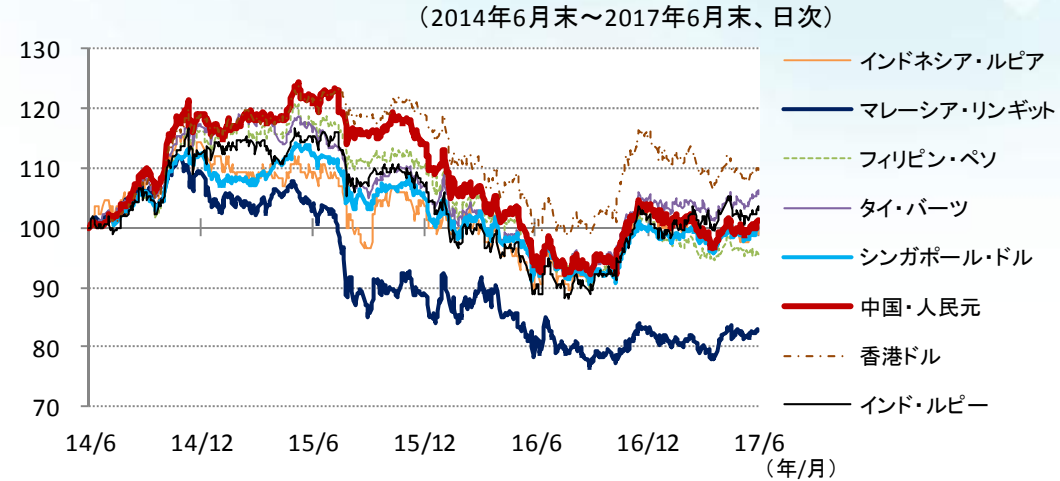
各国の国債利回りの推移



※10年国債の利回りを使用。

## 為替

各国の為替の推移(対円)



※グラフ開始日を100として指数化。

### 【前月の市場概況】

6月は各国の国債利回りがまちまちの動きとなりました。

米国で追加利上げが実施されたものの、先行きの金融政策の正常化が緩やかなペースで進むとの見方が強まり、中旬にかけてアジア国債の利回りは概ね低下(価格は上昇)しました。月末にかけて欧州やカナダでも先行きの金融緩和縮小観測が強まり、欧米長期金利上昇の影響を受けてアジア国債の利回りは概ね上昇しました。月間では**インドネシア**、**タイ**、**フィリピン**の利回りが低下した一方、**マレーシア**、**シンガポール**の利回りが上昇しました。

### 【今後の見通し】

アジア債券市場は、もみ合い推移が見込まれます。

アジア主要国の消費者物価指数は概ね落ち着いた推移が続いており、当面は現状の緩和的な金融政策が維持される見込みです。相対的に利回りの高いアジア債券には一定の資金流入が続くと期待されるものの、一方で欧米主要国で金融緩和縮小観測が強まっており、欧米金利の動きに左右されやすい展開が見込まれます。

### 【前月の市場概況】

6月のアジア通貨はフィリピン・ペソを除き、総じて上昇しました。米国に続いて欧州やカナダでも先行きの金融緩和縮小観測が強まる中、緩和の長期化が見込まれる日本との政策の違いが意識されて、円売りの動きが加速しました。また欧州の政治リスク後退や米国株式の上昇によるリスク志向の高まりがアジア通貨の支えとなりました。こうした中、中国当局による為替介入と見られる大口の買いが出た**中国・人民元**が最も上昇しました。一方、**フィリピン・ペソ**は下落しました。インフレ率鈍化による利上げ観測の後退、海外労働者からの送金額の減少に加えて、ミンダナオ島での過激派組織「イスラム国」系武装勢力との戦闘激化などがペソ売り材料となった模様です。

### 【今後の見通し】

アジア通貨は、対円でもみ合い推移が見込まれます。

アジア通貨全般に新たな独自の買い材料が乏しいと見られる中、欧米の金融政策の動向やアジア域内/域外の株式市場、原油ほか商品市況の動向など外部要因に左右されやすい展開が見込まれます。

## アジア市場の主な指標(2017年5月末～2017年6月末、月次)

### 【株式・REIT】

| 国      | 指数名                 | 月間騰落率  |
|--------|---------------------|--------|
| 中国     | 上海総合指数              | 2.41%  |
| 香港     | ハンセンH株指数            | ▲2.24% |
| 台湾     | 加権指数                | 3.53%  |
| 韓国     | 韓国総合株価指数            | 1.89%  |
| インド    | ムンバイSENSEX指数        | ▲0.72% |
| シンガポール | ストレートタイムズ指数         | 0.49%  |
| マレーシア  | FTSEブルサマレーシア KLCI指数 | ▲0.12% |
| インドネシア | ジャカルタ総合指数           | 1.60%  |
| タイ     | SET指数               | 0.84%  |
| フィリピン  | フィリピン総合指数           | 0.08%  |
| 香港     | S&P香港REIT指数         | ▲2.41% |
| シンガポール | S&PシンガポールREIT指数     | 1.83%  |
| マレーシア  | S&PマレーシアREIT指数      | 2.23%  |

※各株式・REIT指数は現地通貨ベース、配当なしを使用

### 【国債利回り】

| 国      | 6月末    | 5月末    | 前月末比   |
|--------|--------|--------|--------|
| インドネシア | 6.829% | 6.953% | ▲0.124 |
| マレーシア  | 3.928% | 3.880% | 0.048  |
| フィリピン  | 4.669% | 4.972% | ▲0.303 |
| タイ     | 2.475% | 2.626% | ▲0.151 |
| シンガポール | 2.091% | 2.077% | 0.014  |

※10年国債の利回りを使用

### 【為替】

| 通貨(単位:円)    | 6月末   | 5月末   | 月間騰落率  |
|-------------|-------|-------|--------|
| 中国・人民元      | 16.50 | 16.19 | 1.91%  |
| 香港ドル        | 14.35 | 14.24 | 0.77%  |
| インド・ルピー     | 1.75  | 1.72  | 1.74%  |
| インドネシア・ルピア  | 0.84  | 0.83  | 1.20%  |
| シンガポール・ドル   | 81.24 | 80.08 | 1.45%  |
| マレーシア・リンギット | 26.08 | 25.94 | 0.54%  |
| タイ・バーツ      | 3.29  | 3.25  | 1.23%  |
| フィリピン・ペソ    | 2.22  | 2.23  | ▲0.45% |

※為替は本邦営業日ベース、インドネシア・ルピアは100ルピア当たりのデータ

### 【当資料の掲載内容について】

※当資料に掲載している表やグラフは、信頼できると判断したデータを基に三井住友トラスト・アセットマネジメントが作成しています。

※当資料に掲載している見通しは、レポート作成時点における三井住友トラスト・アセットマネジメントの見通しであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

#### 【ご留意事項】

- 当資料は三井住友トラスト・アセットマネジメントが投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- ご購入のお申込みの際は最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクを伴います。)に投資しますので基準価額は変動します。したがって、投資元本や利回りが保証されるものではありません。ファンドの運用による損益は全て投資者の皆様に帰属します。
- 投資信託は預貯金や保険契約とは異なり預金保険機構および保険契約者保護機構等の保護の対象ではありません。また、証券会社以外でご購入いただいた場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると判断した各種情報等に基づき作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、今後予告なく変更される場合があります。
- 当資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- 当資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他の一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。